

三島地域の活性化に向けた提言

平成 23 年 3 月 24 日

三島地域委員会

委員長 片野 健一

三島地域委員会では、二つの分科会を設置して、2年間にわたり地域課題や地域資源を活用したまちづくりについて検討を重ねてきた。

これらの検討結果に基づき、住民主体のコミュニティ活動を推進し、安全・安心なまちづくりを進めたい。

◇コミュニティ活動を活かしたまちづくり

豊かな自然や歴史、伝統文化などの多様な地域資源を活かした取り組みと次代を担う地域リーダーの育成など、地域の知恵と力を結集した市民力が発揮されるまちづくりを推進したい。

このため、地域住民の地域活動への参画意識を高め、地域間の交流を促進し、住民主体のまちづくりを実践する。

- 1 地域の事業や行事、イベントについては、実施方法の見直し等を進め、実行委員会方式や公民館事業からコミュニティ事業への移行を図る。
- 2 コミュニティ推進組織の活性化を図るため、簡素で効率的な仕組みづくりを確立するとともに、ネットワークづくりを強化し、コミュニティ活動を支援するため、「コミュニティ推進委員」（仮称）等の組織化について検討を進める。
- 3 「コミセン新聞」や「コミセンだより」などの広報活動の充実を図り、地域住民へ積極的にコミュニティ情報の提供を行い、コミュニティ活動への理解や協力を求める。
- 4 きめ細やかなコミュニティ活動を実施するため、住民の理解と協力を得ながら自主財源の確保に努める。
- 5 コミュニティ事業補助金やふるさと創生基金事業を有効に活用し、長期的なビジョンのもとに、地域に根ざしたコミュニティ活動を実践する。

◇子育てと福祉を大切にしたまちづくり

子育てを応援し、高齢者が生きがいを持ち、障がい者が自立して暮らせるように地域で支えあう、安全・安心な福祉のまちづくりを目指す。子どもの夢を育み、豊かな心を育て、多様な文化にふれあいながら、多世代が参加しやすく、地域全体で支え合う活気ある環境を整えたい。

- 1 子育てを支援する放課後児童健全育成事業（児童クラブ）については、平成23年度から脇野町小学校区の「わくわくルーム」をみしま交流センターに移設し、より充実した取り組みを図る。「日吉児童クラブ」は、専用スペースを確保し、児童館的な機能を持った安全・安心な居場所づくりのための環境整備を行う。
- 2 配食サービス事業については、対象者や実施方法などの利用者ニーズを的確に捉え、見守り体制の強化を図りながらサービスの充実を図る。

◇里山の保全と資源の利活用によるまちづくり

過疎化や農家、林家の高齢化による里山の荒廃により、自然環境の維持管理が困難になることが懸念されている。特に高齢化が深刻となっている中山間地域における集落の活力維持が課題となっており、市民全体の共有財産として、次世代に守り伝えていきたい。

- 1 間伐材や伐採林、河川の障害樹木等を資源とする薪ストーブや木炭、陶芸窯などに再利用、再活用する持続可能な自然循環リサイクル事業を推進するとともに、循環型社会への意識改革と仕組みづくりを行い、地域の活性化と資源保全の両立を図る。
- 2 里山の持つ機能を活かすため、環境教育や自然体験の場、レクリエーションの場として活用することで相互交流による活性化を図る。地域住民と連携して下刈り、間伐などの住民参加型の里山整備に努め、身近な自然に気軽に親しめる機会を増やす。

◇地産地消、安全・安心なまちづくり

農家や地域住民、消費者、農協や商工会等が連携し、地産地消による安全・安心な農産物の生産と流通を確保する。生産者の顔が見え、消費者と話ができるような関係づくりを強化したい。

- 1 地域の高齢者等を支えるため、農産物の直売所の充実や設置支援など、農家と消費者、農協、商工会等と連携できる支援体制づくりを行う。
- 2 地域ぐるみで環境保全のための共同活動を行い、安全・安心な地場産農産物の生産と地産地消を積極的に推進する。